

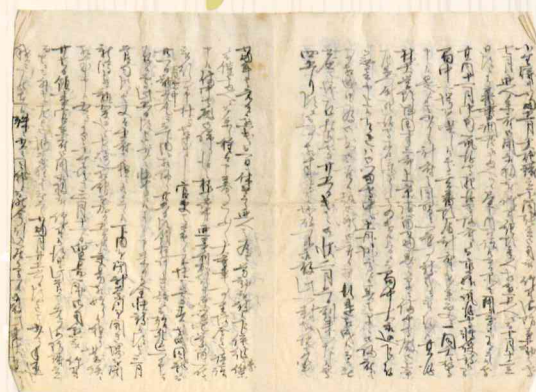
勝海舟記念館企画展

## 拝啓、麟太郎さま - 旗本・岡田新五太郎からの手紙 -

2025年3月14日(金)～7月6日(日) ※5月26日、27日は一部展示入替のため休館

勝海舟(1823～1899)が終生にわたり敬慕していた親友・<sup>おかだしんごたろう</sup>岡田新五太郎(1805～1862)。志半ばにして生涯を終え、残っている資料が少ないため、その人となりはほとんど知られていません。新五太郎は、勝家の近所に住んでいた旗本で、両家は家族ぐるみの付き合いをしていました。海舟とは共に蘭学を学び、互いに苦悩や議論を交わし合える気心知れた良き間柄でした。また、海舟の長崎海軍伝習所派遣が決まってからは、勝家の様子や江戸周辺の海防など、様々な情報を手紙によって共有しています。

本展では、両者が交わした貴重な手紙や、新五太郎の経歴などに関する新出資料から、その人柄はもちろん、没後におよぶ海舟との関係性にも注目します。



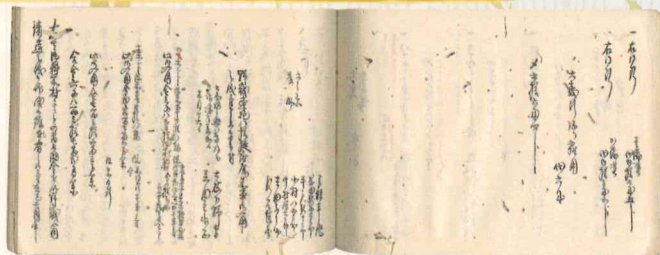
### 稀少な新五太郎の手紙

新五太郎が海舟に宛てた手紙は、当館に8通現存し、そのすべてが安政年間(1854～1860)に書かれたものです。これらの中には、長崎海軍伝習所の第二次伝習生や役人に不満を抱いている海舟に対し、身の振り方に気をつけるよう親身になって助言をし、また、幕閣の動向や自身が休みなく勤めている様子などが記されています。

<勝海舟宛> 岡田新五太郎書簡(安政5年2月7日付)

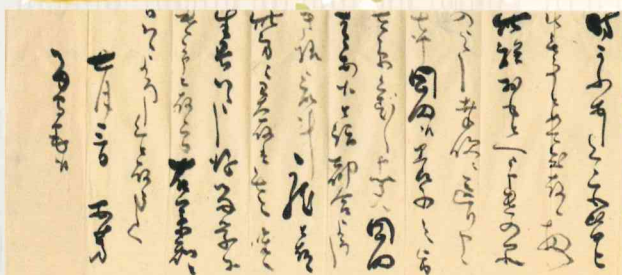
### 新五太郎奪る！品川・大森台場の記録

新五太郎の経歴は不明な部分が多いですが、海舟との手紙以外にその存在と動向が確認できます。その資料の1つが、品川台場や大森台場/大森町打場(現大田区)に設置する大砲の数・場所などに関する右の記録です。大森町打場は海舟が砲術の訓練を行った場所ですが、新五太郎もまた大田区、品川区にゆかりをもっていました。



書付控(慶応2年5月写)

### 海舟、亡き友の名跡を復興す！



<留守宅宛> 勝海舟書状(明治3年7月3日付)

これからという時、世を去ってしまった新五太郎。それから約10年後、海舟は自身の四男・<sup>しちろう</sup>七郎(4歳)によって岡田家の家名復興の悲願を成し遂げました。また海舟は、七郎が成長した後、海外留学をさせたいと考えていました。アメリカへ渡り見識を広めた海舟にとって、七郎に世界を見せることは、かつて新五太郎と海舟が共に抱いていた世界への大志を叶えることでもありました。

ギャラリートークを5月17日(土)、6月15日(日)14時から開催します！

いずれもご予約不要で、費用は入館料のみ。定刻近くに、1階受付前にお集まりください。